

平成30年度学校評価

本年度の 重点目標	① 教育活動の理解を深める。 ② 児童生徒の表現力を伸ばす。 ③ 生活年齢に合わせた道徳的実践を行う。		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
教育活動の 理解推進	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページの内容の精選と改善をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの内容を精選し見やすいレイアウトにする。 ホームページの公開内容を確認し、改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> 内容の精選は、各校務分掌と連携して行う。 情報機器活用の事例などICT教育に関する取組も掲載する。
	<ul style="list-style-type: none"> 保護者に学校・学級の教育活動や方針を実際に見ていただくことで、共通理解を図り、協力体制をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> H29年度に引き続き、各部で授業参観期間を設ける。 進路学習会や保護者会等の来校時に授業参観が可能である旨を、各種案内文に明示し、参観を呼び掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学部は二日間(10/30、31)、中学部と高等部は三日間(中10/24～26、高11/5～7)行う。 授業参観期間に、各部で無記名アンケート用紙と回収箱を設置する。集計結果を受け、次年度の実施方法について検討を行う。 案内文担当の進路指導部や総務部の協力を仰ぐ。
	<ul style="list-style-type: none"> 南海トラフ地震に関する臨時情報が発表された場合の対応を新たに整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練、シェイクアウト訓練引渡し訓練等、様々な訓練を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 訓練の様子をその都度、観察、検証し、課題解決に向けての方策を検討する。
	<ul style="list-style-type: none"> 地域の幼稚園、小中学校、高等学校への支援活動や情報交換をとおして、地域の特別支援教育の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 巡回相談活動や発達障害児等支援・指導検討会及びあゆみ相談をとおして園・学校や先生方のニーズに応じた支援を行う。 本校通学区6市の特別支援教育指導員等との情報交換会を行い、小中学校の先生方と課題や先進的な取組の共有を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 巡回相談活動や発達障害児等支援・指導検討会実施後に訪問校とできるだけ連絡を取り、相談後の状況を確認し、今後の支援に生かす。 6市の情報交換会で共有した情報を、必要に応じて各市の指導員訪問等の際に地域の先生方に伝達していただく。
表現力の 伸長	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の効果的な活用事例について、職員間で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材教具ライブラリの内容の見直しと活性化を図る。 夏期研修を通して職員のスキルアップを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材教具ライブラリのICTの内容に関して、アプリや実践事例の紹介など重点的に改善していく。 職員のニーズに合った内容の研修を企画する。
	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人に応じた指導の充実を目指して、部ごとに計画的に研究を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学部及び中学部は「自立活動」、高等部は「生活単元学習」をテーマに研究を行う。 昨年度の取組を土台に、授業実践や事例検討を重ねる。 	<ul style="list-style-type: none"> 部ごとに職員間で十分話し合う機会を設定し、研究をより深める。 公開授業及び報告会を実施し、他部の研究内容や成果を共有する。
道徳的実践	<ul style="list-style-type: none"> いじめをなくし、自分や周りの人々の存在を尊重し、社会の一員として生きるための実践を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動全般を通して道徳教育の観点をもった実践を行う。 昨年度作成した道徳の目標、年間指導計画、指導内容等の検証を行う。 いじめに関するアンケートを学期に1回実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年に道徳の領域会メンバーを配置し、全校に道徳教育の実践を呼び掛ける。 領域会と小学部職員を中心に年間指導計画等の見直しを行う。評価については、H29年度小学部で実施した「心の教育実践記録」を基に、道徳の評価の視点について検証し、まとめる。 いじめについて早期に発見し対応する。
	<ul style="list-style-type: none"> 交流及び共同学習や体験活動をとおして、人と関わる力や、身近な自然を大切にす心の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> (小)各学年で年1～2回近隣の小学校との交流及び共同学習を行う。 (中)自然体験活動として、田植えや稲刈りを行う。 (高)地域の団体との交流及び共同学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> (小・高)交流校や地域の団体と連携を図り、道徳的な視点から交流の目標と内容について話し合い、計画的に実践をする。 (中)教員間で目標・内容を話し合い、道徳的観点を確認して取り組む。
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 校内の環境整備に努め、職員の危機管理意識の向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> アレルギー研修の実施及びアレルギーを有する児童生徒情報を共有することで、児童生徒の安全な環境を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 該当児童生徒の指導体制について全職員へ周知・徹底を図る。
職員の 労働環境	<ul style="list-style-type: none"> 職員の在校時間適正化に努め、健康障害防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 在校時間の正確な把握に努める。 定時退校日の設定と、午後8時施錠を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 在校時間等の状況記録の結果を活用し、業務の適正化を図るとともに教職員の確実・適切なメンタルヘルスの保持に努める。
学校関係者評価を実施する 主な項目	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動の理解を深める。 児童生徒の表現力を伸ばす。 生活年齢に合わせた道徳的実践を行う。 		